

2007年大会からものづくり大国に向けて

厚生労働省職業能力開発局能力評価課技能五輪係

I はじめに

第38回技能五輪国際大会が本年の5月25日(水)から6月1日(水)まで、フィンランド(ヘルシンキ)で開催された。競技は、日本を含め37カ国・地域の660名の選手が参加して、我が国参加32職種を含む39職種について行われた。

日本選手の金メダル獲得数は5個でスイス、南チロル・イタリアに並び1971年の第20回大会以来となる世界第1位、また、金銀銅のメダル獲得数は8個で世界第5位であった。

次回の第39回技能五輪国際大会は、2007年静岡県において第7回国際アビリンピックと同時に開催される。本大会に向けて、厚生労働省ではものづくり立国の推進事業として、ものづくり技能に関するシンポジウム、フォーラム等の開催、技能五輪国際大会に向けた選手強化、若年者ものづくり技能競技大会の開催、工業高等学校等への高度熟練技能者派遣等、若年ものづくり人材の育成促進、技能尊重気運の醸成を図ることとしている。

II 2007年ユニバーサル技能五輪国際大会とは

(1) 大会の概要

技能五輪国際大会は、各国の若者が国際的に技能を競うことにより、参加国の職業訓練の振興と技能水準の向上等を目的とした大会であり、1950年にスペインで第1回が開催さ

(技能五輪国際大会とは)

国際的に技能を競うことにより、参加国の職業訓練の振興及び技能水準の向上を図るとともに、青年技能労働者(満22歳以下)の国際交流と親善を目的とした大会で、1950年(昭和25年)に2カ国(スペイン、ポルトガル)で始まった。原則2年ごとに開催されている。

1966年には、参加国の代表により技能五輪国際組織委員会(ワールドスキルズ)が組織され、この組織委員会の定めた規約に基づき、大会が運営されている。

(国際アビリンピックとは)

国際アビリンピックは、1981年(昭和56年)の国際障害者年を記念して、障害者の職業技能の向上を図るとともに、事業主及び社会一般の理解と認識を深め、さらに国際親善を図ることを目的として、1981年10月に第1回大会が東京で開催された。

国際アビリンピックは、開催国の障害者関係団体が主催団体となり、国際リハビリテーション協会(RI)と国際アビリンピック連合(IAF)との共催で原則4年ごとに開催されている。

れ、我が国は1962年の第11回大会から参加し、1970年の第19回大会が東京で、1985年の第28回大会が大阪で開催された。

国際アビリンピックは、障害のある人の職

業的自立意欲の増進と職業技能の向上，事業主及び社会一般の理解の増進等を図ることを目的とした技能競技大会であり，1981年の国際障害者年を記念して第1回大会が東京で開催された。

これらの大会は，第1回目以降，異なる時期に異なる都市で開催されてきたが，2007年に初めて静岡において，第39回技能五輪国際大会と第7回国際アビリンピックが2007年ユニバーサル技能五輪国際大会として同時開催されることとなった。

(2) キャッチフレーズ

個性輝く技能の祭典 ～見せよう，伝えよう，技能で輝く個と社会～

(3) 大会規模

①第39回技能五輪国際大会

・参加国・選手数 40ヵ国程度 約2,500人
(選手，審査員他)

・実施職種数 40職種程度

②第7回国際アビリンピック

・参加国・選手数 30ヵ国程度 約1,000人
(選手，審査員，介添者他)

・実施職種数 30職種程度

(4) 大会日程 (2007年)

技能五輪国際大会：11月7日(水)～21日(水)
(15日間)

国際アビリンピック：11月13日(火)～18日(日)
(6日間)

合同開会式：11月14日(水)

Ⅲ 2007年ユニバーサル技能五輪国際大会に向けて

2007年ユニバーサル技能五輪国際大会の基本計画策定にあたっては，本大会を単なるイベントとしてではなく，国が実施する「ものづくり立国の推進」事業との連携を図るとともに，ユニバーサル社会の実現につながる事業として実施することとしている。

1 2007年ユニバーサル技能五輪国際大会開催の基本的考え方

(1) 背景

① ものづくりは労働の原点であるとともに，我が国の経済産業の基盤であり，21世紀における我が国の国づくりにとって不可欠である。ものづくりにかかわる企業を中心として，このようなものづくり及びそれを支える人材育成の重要性が再認識されてきているところであるが，雇用状況が厳しいにもかかわらず若年者の製造業離れが依然として見られるとともに，世代別人口分布で，最も厚い層である1947年生まれの方が60歳を迎える2007年から定年ラッシュが始まることにより，多くの企業においてこれまでのベテラン社員が培ってきた技能の若年層への継承が大きな問題（いわゆる「2007年問題」）となっている。

② このようにもものづくり産業において深刻化する後継者不足等の問題に対処するためには，若年層に対してものづくり技能の魅力を啓発し，若年者がものづくり現場に対して興味を持ち，さらに自ら進んでこの習得に向かう環境を整え，ものづくり技能の習得を通じて就労を促進することが急務となっている。このことは，若年者の職業的自立さらには雇用問題の解決にもつながるものと期待される。

③ また，我が国は障害の有無にかかわらず，相互に人格と個性を尊重し支え合う「共生社会」（ユニバーサル社会）の実現を目指している。21世紀においては，単なる社会参加にとどまらず，障害のある人のあらゆる経済社会活動への参画を推進することが求められており，この意味において技能は，障害のある人にとって，職業的自立を図り経済基盤を確立するために重要な位置付けを持っている。

④ このように技能を身につけ，それを活かした職業に就き社会経済の発展に寄与していくことは，個人の生涯に輝きをもたらすにと

どまらず、「ユニバーサル社会」の実現につながるものであり、すなわち、「ものづくり立国」の推進は「ユニバーサル社会」の道を拓くものでもある。

(2) 大会テーマ

① 「ものをつくりだす人と技」の価値に注目します

「ものをつくりだす」ことは、人間に与えられた最も根源的な能力のひとつであり、人々は技能を習得していく中で、自己を確立しその喜びを手にし、研鑽してきた。今人々は、21世紀の新しい社会においても、「ものをつくりだす」ことを通じて、自らが主役となる活力の溢れた暮らしを実現するために、改めて、「ものをつくりだす人と技」の価値に注目することが求められている。

② 「ものをつくりだす人と技」の価値を体験します

「技能五輪国際大会」と「国際アビリンピック」の同時開催は、「ものをつくりだす」ことが一人ひとりの自己表現や生きることの喜びと深く結びついていることや、障害の有無にかかわらず、「ものをつくりだす人と技」が生み出す驚きと感動を再発見するまたとない機会である。驚きと感動の体験は、多くの人々の関心を高め、様々な人々の出会いをつくり出し、それがさらに次の再発見へとつながっていくだろう。

③ 「ものをつくりだす人と技」の価値を共有し、世界へ発信します

「2007年ユニバーサル技能五輪国際大会」の開催を通じて、多くの人々が「ものをつくりだす人と技」の価値を実感し発信することで、さらに多くの人々がその価値を共有することになるだろう。その人々が、さらに多くの人々に、そして、次世代を担う若者へ、その価値を発信することで、21世紀の重要な価値観として世界に発信し、広く社会に定着し

ていくものと確信する。

(3) 大会メッセージ

「Thanks For Skills」

地球に暮らす全ての人々にとって、水・空気・光はかけがえのない存在であるように、技能もまた心豊かな生活を送るためにかけがえのない存在である。

「2007年ユニバーサル技能五輪国際大会」は「技能五輪国際大会」、「国際アビリンピック」の2大会同時開催を通じて、障害の有無にかかわらず個人々人を輝かせ、ひいては社会に輝きをもたらす技能に感謝するムーブメントを創りだし、その素晴らしさを日本から世界へと発信することで、新しい社会の実現をめざす。

2 ものづくりの立国の推進

(1) 趣旨

世代間人口分布が最も厚い層である1947年生まれの60歳を迎える2007年に戦後世代の定年ラッシュが始まり、大企業においてもこれまでのベテラン社員が培ってきた技能をどのように継承していくかが大きな問題（いわゆる「2007年問題」）となっている。この問題に対処していくために、厚生労働省では平成17年度から子供から大人までの国民各層が技能の重要性を広く認識し、ものづくりに親しむ社会を形成するため、ものづくり立国の推進事業を進めている。

(2) 具体的な事業

① 「ものづくり立国」の社会基盤の整備

「ものづくり立国」の推進のため技能尊厳気運の醸成を図り、企業等における技能者の育成を促進し、併せて、若年者に対してのものづくり技能の魅力を啓発し、若年者の雇用の促進を図る。

平成17年度には、ものづくり技能に関するシンポジウム、フォーラム等の開催、技能五

輪国際大会の金メダリスト等による実演及び新規職種の実演の実施等を行う。

② 「ものづくり立国」を担う若年ものづくり人材の育成

若年者に対するものづくり技能の魅力の啓発や若年者によるものづくり技能競技大会の実施等により新時代に適合した若年ものづくり人材を育成する。平成17年度には、「第1回若年者ものづくり競技会」を行った。

(参考)

(第1回若年者ものづくり競技大会概要)

・目的

若年者ものづくり技能に対する意識を高め、若年者を一人前の技能労働者に育成していくためには、技能習得の目標を付与するとともに、技能を競う場が必要です。

このため、職業能力開発施設、認定職業訓練施設、工業高等学校等において技能を習得中の20歳以下の者を対象に本大会を開催し、これら若年者に目標を付与し、技能を向上させることにより若年者の就業促進を図り、併せて若年技能者の裾野の拡大を図ることとします。

・主催

中央職業能力開発協会

・競技職種及び競技会場

全国大会の競技職種及び競技会場は、下記のとおり。

職種名

- | | |
|-------------|--------------|
| ①旋盤 | ②フライス盤 |
| ③機械製図(CAD) | ④電子回路組立て |
| ⑤建築大工 | ⑥木材加工(家具・建具) |
| ⑦電気工事 | ⑧工場配線 |
| ⑨情報ネットワーク施工 | ⑩メカトロニクス |
| ⑪自動車整備 | ⑫ウェブデザイン |

会場

ポリテクセンター千葉

(千葉職業能力開発促進センター)

・大会日程

平成17年8月26日(金)～同年8月27日(土)

・参加選手の資格及び定数

全国大会の出場資格は、次のいずれにも該当する者

- (1) 日本国内の職業能力開発施設、認定職業訓練施設、工業高等学校、企業内研修施設等において技能を習得中の者であること
- (2) 昭和60年4月1日以降に生まれた者であること
- (3) 次のいずれかに該当する者であること

① 社団法人全国工業高等学校長協会又は都道府県職業能力開発協会の推薦を受けた者

② 事前に公表される課題を達成できると主催者が判断した者

・大会役員

大会会長 若林之矩(中央職業能力開発協会理事長)

大会副会長 小林聰(社団法人 全国工業高等学校長協会理事長)

運営委員長 大久保良香(中央職業能力開発協会常務理事)

技術委員長 梅津二郎(職業能力開発総合大学校長長期課程部長)

・その他

競技課題、競技規則等については、中央職業能力開発協会ホームページ(<http://www.javad.or.jp>)に掲載中。

競技職種名	氏名	所属	成績
ポリメカニクス	渡辺 章二	株式会社デンソー	金
製造チームチャレンジ	木村 司	株式会社デンソー	銅
	竹嶋 佑太郎	株式会社デンソー	
	武田 真樹	株式会社デンソー	
メカトロニクス	平田 彰彦	日産自動車株式会社	金 (日本のベスト・オブ・ザ・ ネイション(国別最高 得点賞))
	遠藤 裕司	日産自動車株式会社	
機械製図CAD	大貫 和俊	株式会社日立ハイテクノロジーズ	金
CNCマシニング	赤塚 孝幸	株式会社日立インダストリイズ	金
溶接	高野 哲也	株式会社日立製作所	15位(敢闘賞)
タイル張り	木下 康博	株式会社奈良屋	13位
自動車板金	鈴木 誠	日産自動車株式会社	銅
配管	田代 翼	株式会社きんでん	10位(敢闘賞)
電子機器組立て	溝口 秀太	日産自動車株式会社	銀
電気	田中 潤	株式会社関電工	6位(敢闘賞)
工場電気設備	長内 浩二	株式会社日立製作所	13位
れんが積み	佐藤 加奈子	株式会社奈良屋	21位
石工	枝 宗史	有限会社ナカセキ	9位
広告美術	館山 裕輝	株式会社エーアイサイン	8位(敢闘賞)
家具	屋代 光紀	清水建設株式会社	17位
建具	武知 香太	有限会社宇田建具	14位
建築大工	畑山 惣一	株式会社白井大工	8位
貴金属装身具	橋本 直季	学校法人水野学園 専門 学校 ヒコ・みずのジュエリーカ レッジ	10位
フラワー装飾	浦上 由加	日本フラワーデザイン専 門学校	12位
美容/理容	津志田 千鶴	株式会社花耶	15位
洋裁	三坂 早百合	専門学校モードリゲル	7位
洋菓子製造	萬歳 あゆは	学校法人三星学園 にい がた製菓・ 調理師専門学校えぶろ ん	8位(敢闘賞)
自動車工	小野寺 宏幸	日産自動車株式会社	10位(敢闘賞)
西洋料理	斉藤 勝敏	ホテルメトロポリタン盛岡	19位
レストランサービス	濱野 彰紀	ミクニマルノウチ	15位
車体塗装	豊田 直樹	トヨタ自動車株式会社	11位
造園	前山 幸輝	株式会社旭日緑化建設	8位
	小林 圭造	株式会社古梅園	
ITPCネットワークサ ポート	中村 博幸	アイフォーコム株式会社	19位
グラフィックデザイン	吉田 夏子	株式会社飛鳥商事	10位
情報ネットワーク施工	小湊 大輔	株式会社協和エクシオ	金
鉄工	斎藤 雄	株式会社日立製作所	6位(敢闘賞)

第38回技能五輪国際大会（国際職業訓練競技大会）入賞国・地域一覧

競技職種名	参加選手数	金	銀	銅	取組賞	その他日本選手が成績
ポリメカニクス	14	日本	チャイニーズタイペイ	ブラジル、スイス	オーストリア、韓国、ドイツ	
製造チームチャレンジ	24	オーストラリア	フランス	韓国、日本	フィンランド	
メカトロニクス	50	日本	スイス、ドイツ			
機軸制御CAD	19	日本	チャイニーズタイペイ、スイス	フランス、韓国、韓国他7	フランス、韓国、韓国他5	
CNCマシニング	17	日本	韓国	チャイニーズタイペイ	フランス、スイス、ブラジル他4	
情報技術	19	シンガポール	チャイニーズタイペイ、韓国		フランス、タイ他4	不参加
溶接	25	韓国、オーストラリア、タイ			チャイニーズタイペイ、アメリカ他12	15位（取組賞）
タイヤ張り	18	南チロル・イタリア	スイス	オーストリア、リヒテンシュタイン	フィンランド、ドイツ、韓国他4	13位
自動車検査	15	イギリス	デンマーク	ドイツ	オランダ、スイス、ドイツ	
配管	20	フィンランド	日本	チャイニーズタイペイ	韓国、オーストリア、オランダ他5	10位（取組賞）
ウェブデザイン	13	スイス	韓国	チャイニーズタイペイ	フランス、ドイツ	
電子機器組立て	16	オーストラリア、カナダ	韓国	シンガポール、マカオ	フランス、オーストリア、ドイツ他2	不参加
電工	24	南チロル・イタリア、ノルウェー	フィンランド	フィンランド	フランス、日本、韓国他7	6位（取組賞）
工場電気設備	19	フィンランド、スウェーデン	ドイツ、スイス	フランス、ブラジル	リヒテンシュタイン、オーストリア他6	13位
かんが積み	22	オーストリア	イギリス、オランダ	南チロル・イタリア	フィンランド、オランダ、フランス他9	21位
石工	11	ドイツ	フィンランド	スイス	韓国、スイス	9位
正統職種	15	オーストリア	フィンランド	スイス	チャイニーズタイペイ、フランス他4	8位（取組賞）
建築大工	21	スイス、ドイツ、リヒテンシュタイン	フランス	南チロル・イタリア	オーストリア、フランス他6	17位
建築	16	ドイツ	フランス	ベルギー、スイス、韓国	チャイニーズタイペイ、アメリカ他5	14位
真鍮彫刻	11	韓国	スイス	南チロル・イタリア	フィンランド、フランス他2	8位
フラワー装飾	14	フィンランド	オランダ、韓国、スウェーデン、オーストリア	韓国	ポルトガル、チャイニーズタイペイ他1	10位
美容/理容	21	フランス	スイス	韓国、フィンランド	ルクセンブルグ、スイス	12位
ビューティーセラピー	11	南チロル・イタリア	フィンランド、イギリス	韓国、フィンランド	タイ、オーストリア、デンマーク他5	15位
洋服	11	韓国	タイ	カナダ	フィンランド、スイス	不参加
洋菓子製造	16	南チロル・イタリア	カナダ、ドイツ	チャイニーズタイペイ、スイス	カナダ	7位
自動車工	22	アメリカ合衆国	オーストリア	韓国	フランス、韓国、オーストリア他3	8位（取組賞）
西洋料理	21	ドイツ	スイス	フランス、南チロル・イタリア、オーストリア	フィンランド、ノルウェー他7	10位（取組賞）
レストランサービス	16	オーストリア、フィンランド	スイス	南チロル・イタリア、オーストリア	韓国、タイ、スウェーデン他1	15位
身体塗装	14	スイス	韓国、ニュージーランド	南チロル・イタリア	デンマーク、スウェーデン他3	11位
造園	22	スイス、フランス	韓国、ニュージーランド	ドイツ	オーストリア、オーストリア、韓国	
冷凍技術	17	アメリカ合衆国	フランス	ドイツ	オーストリア、オーストリア	不参加
ITネットワークサポート	20	シンガポール	カナダ	フィンランド、ブラジル	ドイツ、カナダ、韓国他4	19位
グラフィックデザイン	18	カナダ	ノルウェー	オランダ	フィンランド、オーストリア他4	10位
情報ネットワーク施工	6	日本	韓国、スウェーデン		ノルウェー	
印刷	7	ベルギー	ドイツ	スイス	フィンランド	不参加
木工	10	チャイニーズタイペイ	韓国、スイス	オランダ、フランス、日本他1	オランダ、フランス、日本他1	6位（取組賞）
金属屋根葺	6	スイス	南チロル・イタリア	スウェーデン	フランス	不参加
船政技術	6	フィンランド	スウェーデン、デンマーク			不参加
会社（30職種）	660					